

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉（敬称略）

会沢 泉、新井和枝、荒井美奈子、飯塚泰子、井上晴江、内田信治、海老原サナエ、大井美智子、大曾根キク子、笠原英子、金子君子、金丸文男、神木光治、川部栄子、小林こずい、小山西ミチ子、斎藤尽志、酒井 昭、佐久間ひろ子、佐々木定男、鈴木英子、鈴木エミ子、関田成美、瀬戸加代子、高木千恵子、高橋明美、戸澤竹二、中嶋末子、仲里しげ子、永塚美千代、並木宗次、野岡由紀子、野沢松代、林きぬ子、比嘉洋子、三村美代子、森脇やよい、山下一枝、若尾久美子、若林紀美代。

〈整理作業参加者〉（敬称略）

石垣ゆき子、小澤千恵子、小林登喜江、斎藤尽志、須藤さち子、杣木嘉図子、高橋けい子、丹治つや子、富岡康子、中田藤子、中野和子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図	1:300
遺物出土状況図	1:80
遺構平面図	1:60
炉などの詳細図	1:30
土器実測図	1:4
土器拓影図・石器実測図	1:3

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。（単位はm）

(3) 遺構図中の細数字は、床面もしくは確認面からの深さ（cm）を示す。

2. 住居跡名・土坑名・集石名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 胎土粒子に関する各項の基準は次のように定めた。

小礫；2.0mm以上、粗砂；0.2～2mm、細砂；0.2mm以下。

4. 本書では、岩宿時代を使用した。これは、先土器時代・無土器時代・旧石器時代などと言われているものである。発見遺跡名を時代名とした。

5. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

2 1993年度 埋蔵文化財試掘調査一覧

No.	遺 跡・地 点	所 在 地	面 積(m ²)	原 因	調 査 期 間
1	西ノ原遺跡第63地点	苗間 162-3, 169	147	共同住宅建設	4/13~4/22
2	中沢前遺跡第6地点	苗間 202-1	506	個人住宅建設	4/23~4/26
3	西ノ原遺跡第64地点	苗間 94-1	327.05	共同住宅建設	4/27~4/28
4	神明後遺跡第1地点	苗間 281-1	615.47	共同住宅建設	5/6~5/11
5	神明後遺跡第2地点	苗間 295-2, 299-3	1,688	道路築造	5/12~5/20
6	大井戸上遺跡第2地点	大井 701-1	350	個人住宅建設	6/11~6/15
7	西ノ原遺跡第65地点	苗間 145-1	615	共同住宅建設	6/7~6/11
8	西ノ原遺跡第66地点	苗間 133-2	474	共同住宅建設	6/30~7/19
9	本村遺跡第30地点	大井 155	411	個人住宅建設	7/28~8/30
10	本村遺跡第31地点	大井 154, 155	484.19	共同住宅建設	8/4~8/5
11	東久保西遺跡第2地点	亀久保 419-1 他	75	竪坑工事	8/24~8/26
12	小田久保遺跡第1地点	大井 1,249-1	498.97	個人住宅建設	9/21~10/1
13	亀居遺跡第35地点	亀久保 1,012-7	470	個人住宅建設(曳家)	9/28~11/5
14	本村遺跡第32地点	大井 351	14,310	共同住宅建設	11/9~11/25
15	本村遺跡第33地点	大井 107, 427-1	337	駐車場造成	11/11
16	中沢前遺跡第7地点	苗間 202-1, 202-3	687	駐車場造成	11/26~11/29
17	東台遺跡第20地点	大井 649-27	5	個人住宅建設	1/30
18	本村遺跡第34地点	大井 533-5	1,013	共同住宅建設	12/2~12/3
19	西台遺跡第2地点	大井 897-1, 897-2	6,149	遊技場建設	12/13~3/31
20	西ノ原遺跡第67地点	苗間 159-2	308.05	倉庫建設	1/20~1/21
21	亀居遺跡第36地点	鶴ヶ岡 1-2-2	798.11	礼拝所建設	2/17~2/18
22	中沢前遺跡第8地点	苗間 206-2	137	事務所建設	2/3~2/4
23	苗間東久保遺跡第19地点	苗間 637-14, 15, 16	350	分譲住宅建設	2/8~2/15
24	亀居遺跡第37地点	亀久保 1,003-2, -6 他	566	店舗併用住宅	2/18~2/25
25	東台遺跡第21地点	大井 713-11, 12	299.94	個人住宅建設	3/7~3/11
26	西ノ原遺跡第68地点	苗間字西ノ原 91-2, 6	285	店舗併用住宅	3/22~3/25
27	江川東遺跡第1地点	東久保 1-145-14	52.38	個人住宅建設	3/24~3/25
合 計			31,959.16m ²		

調査地は、苗間地区12件、大井地区10件、亀久保地区3件、鶴ヶ岡地区1件、東久保地区1件である。遺跡別では西ノ原遺跡6件、本村遺跡5件、亀居遺跡3件、中沢前遺跡3件、神明後遺跡2件、東台遺跡2件、大井戸上遺跡1件、東久保遺跡1件、小田久保遺跡1件、西台遺跡1件、苗間東久保遺跡1件、江川東遺跡1件であった。

1 ^{かめい} 亀居遺跡第36地点 (第2図) 埼玉県遺跡 No.30-030

今回の調査地点は、遺跡の北側縁辺部にあたりその範囲を見極めることが大きなポイントとなった。調査は幅2mのトレンチを全域に設定し、バック・ホウにより表土除去をおこなったが、結果として現代の攪乱が著しく、自然面の維存状態が悪かった。調査の結果、遺跡中心部に近い南側で、覆土に締まりの強い暗褐色土が入り込む縄文時代の陥穴の一部を確認した。遺構の南半分は区域外にかかり、しかも深さが2mを優に超えるため、作業も困難だったため底面までの完掘に至らなかった。遺物はまったく出土しなかった。

2 ^{えがわひがし} 江川東遺跡第1地点 (第2図) 埼玉県遺跡 No.30-045

本遺跡においては初めての調査である。遺跡は福岡江川の南側にあり、標高は18mで、遺跡東端は上福岡市境に及び、そこで最大で2mの周辺部ではみられないような比較的大きな段差がみられる。

遺跡は、町内でも最も早く市街化された区域内にあり、表面採集はほとんど不可能であるが一部残された畑地からは、須恵器の散布が分布調査で確認されている。

今回は既存住宅の立替えに伴う調査で、取壊し後から基礎打ちの合間をぬって行った。1.5m四方のグリッドを4箇所人力で開けた。その結果、縄文土器(中期)と須恵器片が出土する溝1本を確認した。遺構が僅かであったので、確認調査の範囲内で記録化した。

3 ^{ひがしくぼにし} 東久保西遺跡第1地点 埼玉県遺跡 No.30-009

1993年度を初年度とする東久保土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査の一環として初めての調査が実施された。遺跡の現状は平坦な畑地で、標高は19~20m。遺跡南部にはかつての伏流水の流路がコンターから読み取られる。この細流は北東方向で福岡江川に合流する。

今回、下水管敷設のために地上から竖坑を掘削するため事前に試掘確認調査を行なった。調査は5×5m1箇所、3×2m2箇所の竖坑面積部分の全面を対象にした。その結果、遺構・遺物ともなら確認されなかった。

4-1 ^{にしのはら} 西ノ原遺跡第63地点 埼玉県遺跡 No.30-001

1993年3月9日、当該遺跡内に共同住宅建設工事に伴い埋蔵文化財事前協議書が町教育委員会に提出された。遺跡地図と照合し現地も確認したところ、調査区に北接する区画道路築造の際の発掘調査で中世期の井戸跡(北半部)・段切り遺構が確認されているため、地権者と協議の結果、遺跡の範囲確認と遺構の存在確認を得るため試掘調査を実施することとした。幅2mのトレンチを東西に3本設定し、1993年4月16日に重機での表土除去を開始した。当該区域に関わらず区画整理事業地区全体は、区画整理事業の関連事業として地山直上の20~30cmまでの黒土を削平し、その分を盛土してある区域のため、機械力とはいえ現地表面から1mを優に超す深さに苦労した。本遺跡内は盛土が厚く表土除去も相当ハードな作業になっているため重機を使用した。4月20日から人力による遺構確認の精査をおこなった。井戸遺構の南半部が1トレンチ東部から確認されることを当然予想

したが、結果としては井戸の落ちこみ部分は本調査区域からは確認されなかった。ただし、1トレンチの中央部からほぼ一直線上にピット群が確認された。

これら遺構の深さ・覆土等を観察するため調査を実施したところ、井戸遺構をとりまくピット群の可能性もある中世期のピット群であることが判明した。ピット群の調査を実施し、調査区の測量図面を作成し、機材を撤収し4月22日すべての作業を終了した。

4-2 ^{にし}西ノ^{はら}原遺跡第64地点 埼玉県遺跡 No.30-001

表土を市松状に除去し、その後人力で遺構確認を行なった。その結果、溝1本が確認された。この溝は、本遺跡特有のものでローム層への掘り込みが浅く、その断面形態も非対照をなしている。土地の区画もしくは道路に関するものと思われる。遺物もまったくないことから溝の方向だけを確認し、全掘は行なわなかった。

4-3 ^{にし}西ノ^{はら}原遺跡第65地点 埼玉県遺跡 No.30-001

幅2mのトレンチを3m間隔に東西に4本設定し、遺構の確認を行なった。現地表面から遺構確認面までは約20cm強で、比較的浅い。精査の結果、調査区の南東隅部に黒色土の落ちこみを発見した。ここから須恵器片が出土した。また、中央部・北側部より縄文時代の土坑を3基確認した。確認調査の結果にもとづき開発予定地全域を対象に原因者負担による本調査を実施することとなった。このため大井町教育委員会社会教育課を事務局とする大井町遺跡調査会に調査を幹旋し、1993年6月30日から7月19日まで本調査を行なった。(現在整理作業中)

4-4 ^{にし}西ノ^{はら}原遺跡第66地点 埼玉県遺跡 No.30-001

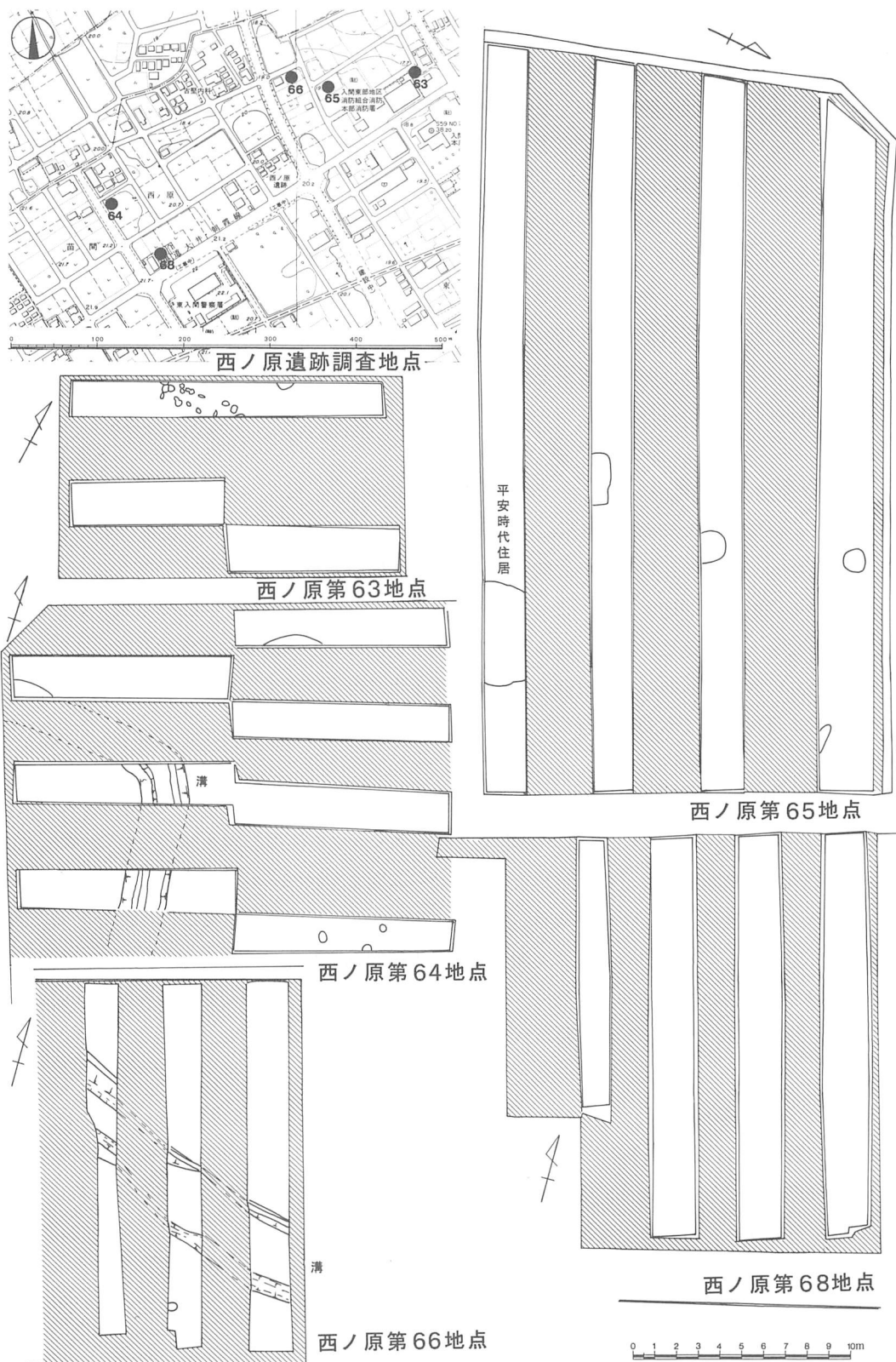
幅1.5mのトレンチを図のように3本設定し、バック・ホウを使用し表土除去を行なった。その後、人力で遺構の確認を行なった。現地表面からローム面までは35~40cmである。精査の結果、時期不詳の溝2条を確認した。その間隔は、約270cmでいわゆる九尺道の両脇に掘られた側溝に匹敵するものと思われる。溝はそれぞれの上端で40cm、下端20cm。断面は箱形をなす。深さは40~50cmを計る。溝1の底面が2より30cm程高い。遺構が僅かであったので、確認調査の範囲内で記録化した。縄文土器細片19点が出土した。勝坂式期3、加曽利E式期16片である。

4-5 ^{にし}西ノ^{はら}原遺跡第68地点 埼玉県遺跡 No.30-001

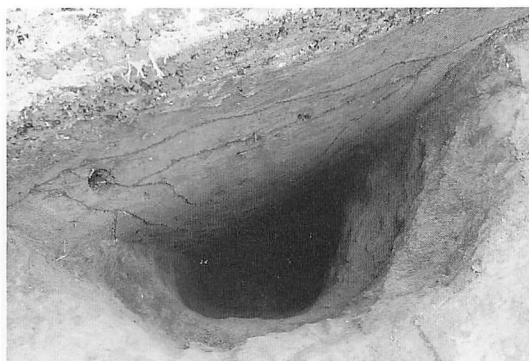
開発予定敷地内に図3のようにトレンチを設定し、まず重機によって約50cm前後の表土を除去した。表土は黒色土でしまり弱く、下層は暗褐色土。包蔵地内であるが遺跡の西南隅部にあたり遺構の確認作業を行なった。精査の結果、調査区の南側に硬化面を確認した。現道にほぼ平行していた旧道路面であった。それ以外は遺構・遺物ともなんら確認されなかった。

5-1 ^{なかざわまえ}中沢前遺跡第6地点 埼玉県遺跡 No.30-044

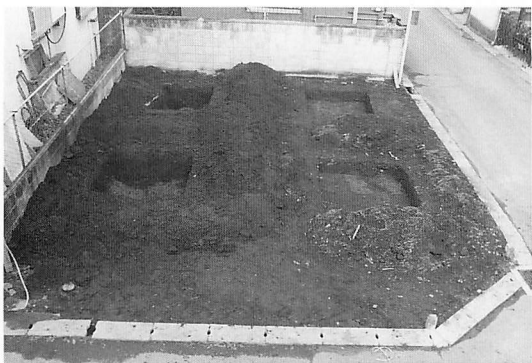
本遺跡は、西ノ原遺跡の北東方向に隣接して位置する縄文時代前期~中期にかけての遺跡である。



第3図 西ノ原遺跡 試掘調査位置図及び調査区域図(2)



亀居遺跡第36地点・おとし穴



江川東遺跡第1地点・溝



東久保西遺跡第1地点・グリッド



西ノ原遺跡第63地点・トレンチ